

2021年度 事業報告

2021年4月1日から2022年3月31日まで

I. 避難者を支える活動

(1) 事業の成果と課題

今年度は、福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業を中心に四国内に避難している方々への様々な相談支援を行った。相談件数自体は、すこし減少したが、一方で、相談内容はより深刻で長く続いている困りごとをお聞きすることが多かった。

個別訪問や交流会では、つながり続けることでの孤立感の軽減や支え会える実感などをもたらすことができたのではないかと考えている。毎月実施したオンライン交流会では、同郷の方同士が話をしたり、震災のことを語ったり、今の生活の近況報告をし合ったりする場面があり、つながりを維持していく事の大事さを再認識した。

課題点としては、交流会の参加人数が少ないので広報（特に SNS）に力を入れ、参加者が多すぎて話せなくなる程度の人数で実施できればと考えている。

(2) 事業の実施に関する事項

【 情報提供・相談業務事業 】

①（相談業務事業） ※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

・事務所内を相談窓口として活用し、平日の10時～15時開所した。電話、メール、SNS などによる相談は随時対応した。

相談件数 115件（2020年度 135件）

相談者数 63人（2020年度 68人）

来所数（避難者のみ） 23人（2020年度 10人）

②（情報受発信事業） ※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

・情報受発信の本拠地として、情報受発信を行なった。

・機関誌『楽しんで！四国 L I F E 四国内避難者・移住者通信』を発行し、四国内の避難者約40世帯に郵送した。春号7月、夏号9月、秋号11月、冬号2月に発刊した。

・会員約50名には、年に4回（春号7月、夏号9月、秋号11月、冬号2月）『えひめ311通信』を発刊した。

・地域の情報コーナー、NPOサポートセンターなどに機関紙やちらしを配架していただき、広報活動にも努めた。

・交流会などの各種イベント案内は、その都度避難者の方々へちらし郵送した。

・ホームページ、SNS（Instagram、Twitter、フェイスブック）については随時更新を行った。

③（四国内避難者への訪問活動）

- ・四国内避難者を対象に事前アンケート調査を実施し、希望された方々へお米を携えた見守り訪問を実施した。継続している事業なので、避難者の方々との信頼関係も深まり、訪問時に現在の生活状況や将来的な悩みなどを話される方もいた。持ち帰った相談に対しては、継続的な支援を実施し、地域の社会資源へつなぐなど対応をおこなった。
- ・個別訪問に慣れていないスタッフは2人体制とし、合計3名で担当を決め、実施した。
- ・お渡ししたお米は、農業者の堀内さんに協力依頼し格安で譲っていただいた。
- ・今年度は、愛媛：17世帯、香川：6世帯、高知：3世帯、徳島：0世帯 合計：26世帯
（2020年度は、愛媛：19世帯、香川：7世帯、高知：4世帯、徳島：0世帯 合計：30世帯）

④（四国内地域巡回員） ※県外避難者支援運営業務

- ・福島県庁の方々と四国4県の県庁または各関係機関、支援団体を回り情報交換をする予定だったが、コロナのため訪問は中止となり、会議のみの出席となった。

【 被災者・避難者の『命と尊厳』を守るための事業 】

①（交流会事業）

<愛媛県内交流会事業>

- ・3月11日に石手寺で開催された3.11追悼式後に交流会を行った。参加者人数は、約20名
- ・道後公園では、お花見規制があったので、道後公園で桜を見た後、事務所内でお花見交流会を行った。参加人数は、15名

<オンライン交流会>

- ・コロナ禍を考慮して、毎月1回第2月曜日の13時～15時に、ZOOMを使ったオンライン交流会を実施した。各回の参加人数は、1～5名程度であった。他県の避難者の方やたまたま交流会をSNSで知った方や避難者ではない地域の方や震災に興味関心がある方などと交流することができた。このオンライン交流会で初めて出会った避難者の方もおり、震災から10年経ち、新たなつながりを得ることもできた。フリーテーマで行ったが、避難元の話や文化の違いなどの話題はいつも盛り上がっている。お花見交流会もオンラインでつなぎ、遠隔から参加できるように工夫した。

<震災から10年、あれからこれから交流会（仮名）>

- ・計画していたが、コロナ禍のため中止した。

②（帰省旅費支援事業）

- ・四国内避難者の方々17世帯41名（昨年度19世帯56名）の方々が利用した。家族との再会やお見舞い、お墓まいり、進学準備などのための利用がみられた。避難者にとって、使いやすくニーズの高い事業となり、予定以上の申し込みとなった。

③（健康診断実施事業）

- ・避難者からの要望が多かった甲状腺検査をはじめとする健康診断を愛媛生協病院の協力のもと、実施した。当団体は、受診日の案内、受付窓口を担当した。合計で1人(女性70代)(2020年度は、5人(男性2人、女性3人))の避難者が健康診断を受診した。コロナ禍と関係しているのかどうかは定かではないが、年々利用者が少なくなっている。受診者が減少している理由として、推測とはなるが、避難者の減少と避難者の仕事が安定し、社会保険に加入できる仕事に就いた方が増えているのかもしれない。

④（自立支援事業）

- ・協働オフィスの管理事務費、えひめリソースセンターの事務委託費を充てる。
- ・コロナのため、バザーなどのイベントは中止となった。

Ⅱ．被災地の復興に向けた活動

（１）事業の成果と課題

保養活動の後方支援を今までは行っていたが、コロナ禍のため保養活動自体が中止となっているので、活動ができなかった。被災地スタディツアーも再三計画を立て直したが、コロナのために延期とした。災害支援の緊急対応は、実施しなかった。

（２）事業の実施に関する事項

①（被災地支援事業）

- ・災害支援の緊急対応は、実施しなかった。

②（被災地スタディツアー）

- ・コロナ禍のため延期とした。
- ・総会前ではあるが、2022年5月27日（金）～5月30日（月）に実施したスタディツアーは、2022年度実施とする。

Ⅲ．これから起こる災害に備える活動

（１）事業の成果と課題

コロナ時代により、オンラインの環境が整い、オンラインでの講演会や研修会が増え、回数は昨年度と比べ増えた。理事会等で話し合った結果、震災の時の写真や映像を事務所内で展示し、地域の方々に公開し、東日本大震災を振り返り、愛媛県内でも起こりうる様々な災害を強く意識し、備えの大切さを愛媛県民に認識してもらうための活動を行った。古川ふれあい農園では、当団体が管理業務を行い、愛媛医療生協の「レインボーファーム」の方々が中心となり、高齢者の生きがいづくりや近隣の幼稚園のサツマイモ農園として役割を果たしている。東雲コミュニティファームは、えひめグローバルネットワークと協働し事業を行い、東雲小学2年生の生活科の授業でさつまいも植えとさつまいも掘りを実施した。

課題は、オンラインを利用し、災害が発災した時のための平時からできる備えに関して、愛媛県民に啓発したり、イベントを開催したりなど、具体的な取り組みを実施できなかった事である。SNSなどを使い、多くの方が防災意識を高めることができるようなアクションを起こしていきたいと考えている。

(2) 事業の実施に関する事項

① (講演会やワークショップ、写真展等開催事業)

・2020年度は、13回

回数	実施日	講演内容	実施場所	対象者	参加数 (概数)	担当者
1	6/3	愛媛県ボランティア・市民活動センター運営委員会	愛媛県社会福祉協議会	運営委員	10人	澤上
2	6/24	NPO 防災ネット会議	コムズ	参加団体	10人	澤上
3	6/29	災害支援プロジェクト委員会	愛媛県社会福祉協議会	災害支援プロジェクト委員	10人	澤上
4	7/3	松山市自主防災組織 選考委員会	松山市消防署	松山市自主防災組織	30人	澤上
5	7/5	防災講演会	愛媛大学	学生	50人	澤上
6	7/7	NPO 防災ネット会議	コムズ	参加団体	10人	澤上
7	8/8	多文化共生型の減災社会づくり実践研修に参加	オンライン	防災に関心のある団体・関わっている団体	30人	澤上
8	8/18	草奔の集い 講演会	オンライン	草奔の集い会員	20人	澤上
9	9/10	災害支援プロジェクト委員会	愛媛県社会福祉協議会	災害支援プロジェクト委員	10人	澤上
10	9/18	多文化共生型の減災社会づくり実践研修に参加	オンライン	防災に関心のある団体・関わっている団体	30人	澤上
11	9/29	広域避難者支援ミーティング in 東京にて話題提供	オンライン	東京都広域避難者支援団体及び関係者	33人	澤上
12	10/18	復興支援員研修講師	オンライン	復興支援員及び関係者	20人	澤上
13	10/20	新潟大学学生によるインタビュー	オンライン	大学生、教授	20人	澤上
14	10/27	新潟大学学生によるインタビュー	オンライン	大学生、教授	20人	澤上
15	10/28 ~29	災害ボランティアセンター中核スタッフ養成研修	愛媛県社会福祉協議会	社会福祉協議会職員 災害支援プロジェクト委員	30人	
16	11/13	3.11の今が分かる会議	福島県双葉町産業交流センター	東日本大震災、福島県や広域避難に関心のある団体・関わっている団体	77人	澤上
17	11/26	早稲田大学学生によるインタビュー	オンライン	大学生、教授	20人	澤上
18	11/27	3.11の今が分かる会議	福島県双葉町産業交流センター	東日本大震災、福島県や広域避難に関心のある団体・関わっている団体	72人	澤上

19	11/30	防災講演会	道後公民館	道後地区住民	50人	澤上
20	2/19	住民参加による防災推進研修会	瀬戸アグリトピア オンライン	災害支援プロジェクト委員 地域住民・学生・防災士・NPO・ ボランティア関係者・行政・医療福祉の専門職	73人	澤上
21	2/19	第2回災害VC中核スタッフ養成研修	愛媛県社会福祉協議会	災害支援プロジェクト委員 愛媛県内社会福祉協議会職員	30人	澤上
22	3/25	愛媛県ボランティア・市民活動センター運営委員会	オンライン	運営委員	10人	澤上
23	3/10	ひめDON!「地震への備え“はじめの一步”」出演	NHK	視聴者		澤上
24	3/28	「四国防災ネットワーク」出演	NHK ラジオ	視聴者		澤上

②（減災農園運営事業）

<古川ふれあい農園>

- ・古川ふれあい農園の運営管理業務を行った。
- ・レインボーファームが中心となって、三葉幼稚園とさつまいも植えを実施した。レインボーファームは、コープの助成金を獲得し、農園事業の充実と事業の安定、設備の充実を図った。

<東雲コミュニティファーム>

- ・NPO法人えひめグローバルネットワークと共に東雲コミュニティファームを利用した事業を行った。
- ・松山市立東雲小学校2年生の環境学習の場として6月9日にさつまいもの苗植え、11月15日には収穫を行った。